

新響第30回定期演奏会

1975年10月19日(日)午後7時　日比谷公会堂　指揮 山岡重信

Ⅰ．大学祝典序曲，作品80
Akademische Festouvertüre, Op. 80

――――――――――――――――――――――――――――――― ヨハネス・ブラームス
――――――――――――――――――――――――――――――― Brahms, Johannes (1833～1897)

Ⅱ　ファゴット協奏曲変ロ長調，K.191
Konzert B-dur Für Fagott und Orchester, K.191

――――― (独奏　前田信吉) ―――――――――――― ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト
――――――――――――――――――――――――― Mozart, Wolfgang Amadeus (1756～1791)

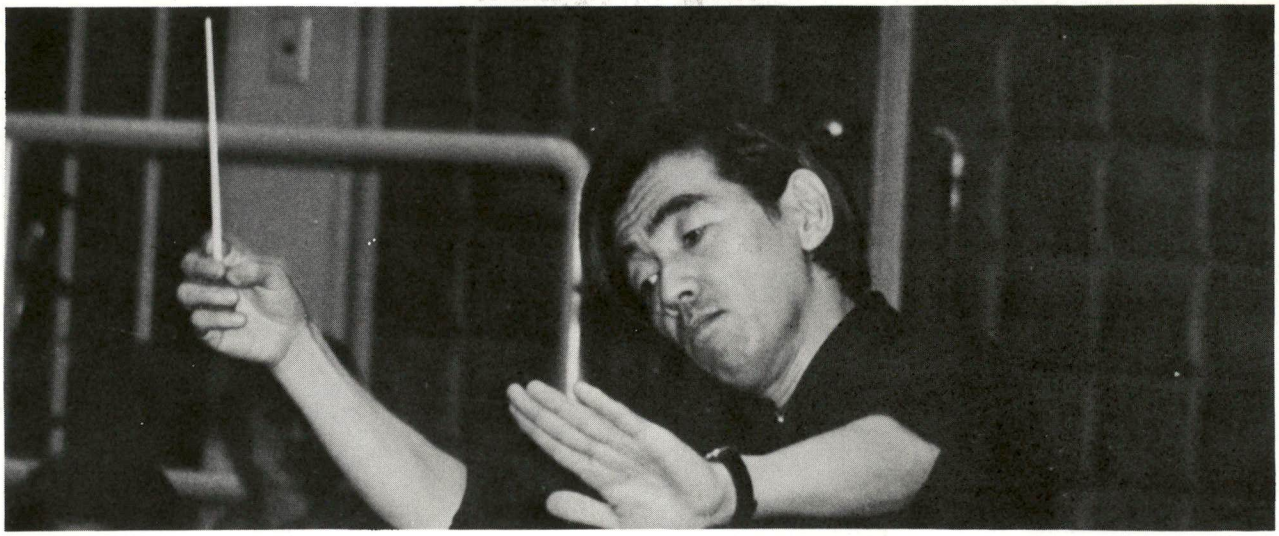
第一楽章：アレグロ
Ⅰ．Allegro
第二楽章：アンダンテ・マ・アダージョ
Ⅱ．Andante ma adagio
第三楽章：ロンド〔テンポ・デ・メヌエット〕
Ⅲ．Rondo ; Tempo di menuetto

Ⅲ．交響曲　第4番　変ホ長調「ロマンチック」
Sinfonie Nr. 4 Es-dur "Romantische"

――――――――――――――――――――――――――――――― アントン・ブルックナー
――――――――――――――――――――――――――――――― Bruckner, Anton (1824～1896)

第一楽章：アレグロ・モルト・モデラート――メノ・モッソ
Ⅰ．Allegro molto moderato――Meno mosso
第二楽章：アンダンテ
Ⅱ．Andante
第三楽章：スケルツォ〔ヴィヴァーチェ・ノン・トロッポ〕
Ⅲ．Scherzo ; Vivace non troppo
第四楽章：フィナーレ〔アレグロ・モデラート〕
Ⅳ．Finale ; Allegro moderato

＊　今夜は、《ハース原典版》により演奏いたします。



客演指揮者
山岡　重　信

本当の意味で〈音楽のむし〉というのは山岡先生のような方ではないかと思います。一年程前にW大学の合宿を覗きに行った時ーやはりブルックナーをやっていたのですがー合宿のそれこそすべての時間を極めてエネルギッシュに音楽に費やされている先生を見ました。それは、例えば練習の合い間も食事の前も、スコアーを読まれカセットを繰り返し聞かれるという具合で、何か本当のものに圧倒されるという思いがしました。

指揮をお引受けになると先生はお忙がしい時間を可能な限りさいて私達の練習に見えて下さいます。重厚で情熱的な指揮が私達から音楽を引き出し、そして厳しくかつ暖かいご指示をされます。練習はいつもあっという間に終ってしまうのです。

先生が最も強く要求されるのは、オーケストラの自発性と音楽が流れるという事で、これは特にドイツ古典・ロマン派をやる時に強く指揮されます。本日のプロで私達新響がどれだけオケの力を発揮できるかは過去の蓄積の結晶であるわけです。

私達新響は過去も現在も常により秀れた演奏を目指して来ましたが、これは芥川先生を始めとするアマ・オケに理解・情熱を示される多くの方々のご指導があって初めて可能な事です。今回の定期をやはりアマ・オケにご理解を示される山岡先生がお引受け下さった事は私達の大きな喜びです。

先生は現在、東京都交響楽団・日本フィルハーモニーの他全国で広く活躍されています。

新響を振って戴くのは今回が初めてです。



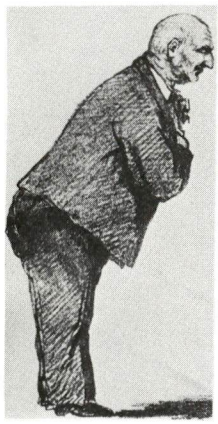
前　田　信　吉（ファゴット演奏）

１９６６年　東京芸術大学音楽学部卒業と同時に１９７４年まで同大学講師。

１９７４年　西独ハノーバ音楽学校へ留学。

中田一次、三田平八郎、ローランド・スモールクラウス・トゥーネマン各氏に師事。

現在はアカンサス五重奏団、東京モダンチェンバーアンサンブル等室内楽に広く活躍。広島出身







交響曲第4番　　ブルックナー

ブルックナーの交響曲は、この世にもたらされた最も純潔で荘厳な音楽といえるのではなかろうか。ブルックナーにとって音楽は最も純粋な意味において魂の言葉であり、人の手に触られざる泉水の清らかさをもっているのである。

聖フロリアン修道院の中でみずからの音楽をはぐくみ、リンツからウィーンへ移っても、はなやかな都の空気になじみえなかったブルックナー、彼は全く子供のような素直さをもって音楽を受けとめ、つちかい、育てあげたのである。

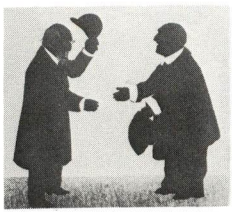
彼は音の中に思想や反省や何か一定の感情の表現を求めようとしたのではない。どこまでも音そのものの表現に耳を傾け、これを表現せんとしたのである。だからブルックナーの交響曲には、音のひびきそのものに対する強い喜びがある。彼の大編成の管弦楽、ことに金管の重要性は彼の特性のおもしろさを示している。それはマーラーやR.シュトラウスとも違うひびきである。

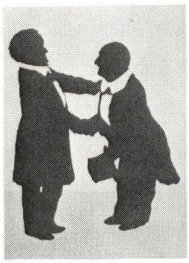
ブルックナーの育った世界は田園であり、僧院であった。彼にとって音として耳に入るものは、みずからひく教会のオルガンだけである。楽章のコーダにおける主音のオルガンポイントに置かれた力強い音の嵐や、金管の合奏による輝かしさは、偉大なものと子供らしい無邪気さとの奇妙な融合である。

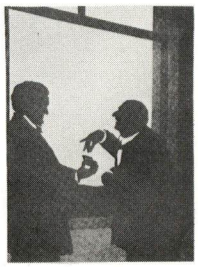
ここでブルックナーの交響曲のスコアを、何ページも何ページも単にめくるだけでなく、よくその中味を熟読してみようではないか。そこに我々は、森の静けさと激しさを感じるチャンスをつかむことであろう。ホルンは至る所で歌い、曲の終り近くになると部厚い金管群が荘厳なるコラールをかなでる。一方弦のトレモロは、森の木々の葉のざわめきを表わし、それらがくり返しくり返しつながっていくのである。夕暮のたそがれの中で、田舎の人々の踊りが始まる。人々は終りのない神秘性と感謝をもって、すべてのものにささげものをする。

この音楽の一つの世界が、それ自身、シューベルトからワーグナーに至る、ビューティフル、サウンドの中での喜びを示しているが、この喜びは、音楽の全体の動きを次第におそくさせる傾向の中に表わされている。彼の九つの交響曲におけるアダージョ楽章には、この喜びに対して、全く逆の作用が見受けられる。いかに多くの苦悩、それも魂の悩みがひそんでいることだろう。

オットー・シューマンは、彼のアダージョを評して、「いかなる作曲家も緩徐楽章において、ブルックナーほど悲痛さを強く音にひびかすことはできなかった」と言っている。しかし、その音楽は澄んでいる。懐疑や苦痛は終りに必ず力強強い肯定に終る。それは、ベートーヴェンのように、







運命とのはげしい闘争のはての勝利にあるのではなく、敬けんな、カトリック教徒として、神の力によって得られた肯定なのである。また、そこにはあらゆる苦悩と破壊と屈辱にもかかわらず、人生を喜ばしく、また力強く肯定しようとする田園人としてのブルックナーがいる。ロマンティカーとしてのブルックナーは自然の子であり、そこには、陽光ののどかに輝くオーストリアの自然が、そこに踊る純朴な百姓たちの面影が表われてくる。彼のスケルツォ楽章では、主部とトリオとは、それぞれ違った気分をもって、ブルックナーのふるさとが出てくる。それは多少ひなびた自然の喜びであり、また自然に対する喜びである。

かくして、第1楽章と第4楽章が神なるものの生成と完成を意味するならば、中間のアダブジョとスケルツォは、この世の悲しみと喜びであると言えよう。

本日演奏される4番の交響曲は、1874年1月からスケッチが始まり、11月に完成78年から大巾な改訂が行なわれたものである。初演は、1881年ハンス・リヒターの指揮によって、ウィーンで行なわれた。

副題として名付けられている「ロマンティッシェ」は、ブルックナー自身が名付けたせいもあって、彼の9曲の交響曲の中でも最も親しまれ、ポピュラーなものである。

1楽章は弦のトレモロの上にホルンが遠くから聞えてくるところから始まる。言わゆる「ブルックナー開始」である。このホルンに木管が答える。やがてクレッシェンドと共に、あのブルックナーリズムが力強くテュッティで奏される。

ヤン　タン　タタタ　ターン　と。

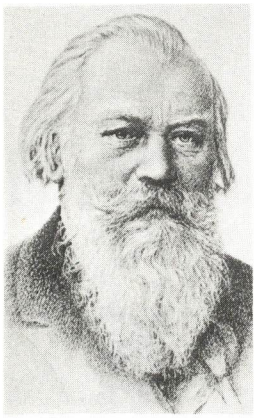
2楽章は、悲しい楽章である。　弱音器を付けたバイオリンの伴奏の中で、チェロが、朗々と第一主題を歌いあげる。　最後は力強いクライマックスの後、悲しみに沈んだフレーズを、ホルンとヴィオラと木管が徐々に消えるように歌って終る。

3楽章は、有名なスケルツォで、例のブルックナーリズムで、ホルンが狩人の音楽を奏する。トリオはいわゆる田吾作メロディーなのだが、バイオリンが歌いあげる旋律は美しい。

フィナーレは、今までの楽章の主題も挿入されながら、次第に力強さを増し、不思議な弦の6連音で頂点に達する。　複雑な組合せの中でfff、ppp、それぞれ突如としてくり返されながら、、コーダを迎える。　pppから長いクレッシェンドで、次第に音の厚みを増し、壮大な音の積み重ねで、全曲が終る。

この曲の新響推薦盤としては、断然カールベーム指揮ウィーンフィルの演奏をあげておきます。

演奏時間約64分。





大学祝典序曲　　ブラームス

この曲には、ブラームスが活躍していた頃、ドイツの大学生の間で愛唱された4つの学生歌が用いられています。そのうちの一つは、我々にも馴みのあるもので、特に受験経験のある人には、○×社の大学受験講座のテーマ音楽として、ラジオで耳にした方も多いはずです。

ブラームスは生涯に歌劇を作曲しませんでしたが、序曲と名のつく作品は、言わゆる演奏会用序曲として、この「大学祝典序曲」と「悲劇的序曲」の二曲だけを書きました。二曲共ブラームスの円熟期、丁度、交響曲第2番と第3番の間の1880年に作曲されました。大学祝典という意味は、ブラームスがブレスラウの大学から名誉教授の学位を授けられたお礼として作曲したために名付けられたもので、初演は1881年1月4日にブレスラウのコンツェルトハウスで行なわれました。

日頃、重々しい、いかにもドイツ風の感じの強い音楽を作曲していたブラームスにしては珍しく明るく、笑いのある音楽になっています。　彼はこの曲のことを、「学生歌のスッペ風につくられた元気な接続曲」と呼んでいます。そのためか、今日では大学の入学式や卒業式になると、その大学のオーケストラがこの曲を演奏して、晴やかなお祝いの音楽として、その雰囲気をかもしだしている所も多いようです。

本日の演奏会が終ってからもう一度レコードでこの曲を聴いてみたい方々のために、新譜推薦盤レコードを紹介致しましょう。

最近録音されたものではあまり良い演奏はなくあえてとれば、ジョージ・セル指揮クリーブランド管弦楽団のものぐらいで、それよりも録音は多小悪くても、演奏の中味を重視される方には、まず第一番に、エドゥアルド・ヴァン・ベイヌム指揮アムステルダムコンセルトヘボウ管弦楽団のものをお推めします。そしてそれと双璧にあげられるのが、ブルーノ・ワルター指揮ニューヨークフィルハーモニーのものとトスカニーニ指揮NBC交響楽団のものがあげられます。本場ドイツのオーケストラによる良いレコードがなく、アメリカのオーケストラのものが多いのはちょっと残念。

演奏時間は約11分。



ファゴット協奏曲　　モーツァルト

モーツァルトは管楽器のための協奏曲の作曲にあたり、富裕なアマチュア音楽家の依頼を受け、当時の名演奏家を頭に描き、彼らのために筆をとったことは明らかです。　そして彼らが満足すると同時に、聴き手を愉しませる配慮を常に心がけたと言えましょう。演奏家と聴衆の要望の接点の上に自分をおいて、そこに彼の音楽を形成させたモーツァルトでしたが、しかもなお、常に「モーツァルト的」であったのでした。

モーツァルトは、ファゴットのために少なくとも4曲の協奏曲を書いているのですが、現在では本日演奏される「K191」の1曲しか残っておらず、残りの3曲は消息不明です。もっともこれら4曲は、珍らしいファゴットとチェロのためのソナタ、K 292と共に、ミュンヘンのデュルニッツ男爵のために作曲されたというところまでは、わかっているのですが。

1774年6月4日、ザルツブルグで初演された、この唯一のファゴット協奏曲は、モーツァルトが3回にわたるイタリヤ旅行から帰った時期の作品で、アレグローアンダンテ・マ・アダージョーロンド〔テンポ・ディ・メヌエット〕の3楽章から成り、協奏部は、オーボエ2、ホルン2と弦5部という編成です。

曲の規模は小さいのですが、味わいのある、特に2楽章は何とも言えぬ情緒をたたえ、3楽章への移行がこれほどスムースな曲は多くありません。

ビバルディやウェーバーのファゴットのための曲と共に貴重な低音楽器のための曲で、今日では、コントラバスの協奏曲として転用されることもあります。

この曲のレコードの新譜推薦盤を紹介しょうと思いましたが、こういう管楽器のレコードを人に推薦することは非常に難しいことです。なぜなら同じファゴットという名前の楽器にもかかわらずその奏者によってあまりに音色が異なるため、それを聴く人の好みによって好し悪しの判断がなされることが多いからです。人によっては、フランス的だとか、ドイツ的だとか、アメリカ的だとかという分け方もありますが、それでも不十分でしょう。あえて一つだけあげれば、〔勿論筆者の好みになりますが〕最近録音された、ベーム指揮ウィーンフィルの伴奏によるツェーマンが吹いたものが良いと思います。

演奏時間は約17分。
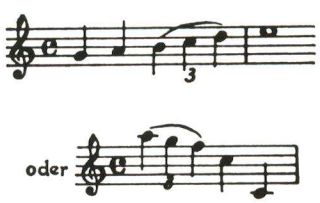
〔C.B.　中尾恒彦〕

なぜ？ブルックナー

山岡　重信

合唱音楽が今非常に盛んになってきたことと、いろんな和音感がみんなに発達してきたことがベースになっているのだと思うけれども、最近、ブルックナーの愛好者が非常に増えてきていますね。演奏回数も増えているし、こんなにここ数年で加速度的になった作曲家も珍しいですね。まあ、オーケストラの、いやアマチュアオーケストラの非常に取り組み易い、易いといっては語弊があるが、じっくりと半年の間楽しみ続けて最後まで楽しめる、そしてその後も聞けば聞く程増々その良さが解ってくるのがブルックナーの音楽の魅力なんでしょうね。ブルックナーはある意味では非常に現代的だし、ある意味では非常に古典的だともいえるのですけれども、現代人の心をつかんだ作曲家の１人ではないでしょうか。ブルックナーが死ぬ前に、こういうふうな極東のというか、日本のアマチュアオーケストラがとり上げると知ったら、さぞかし喜んだでしょうねえ。ブルックナーは、さっきコーラスのことをいいましたね。もう一つね、おもしろいのは、最近ハイファイが盛んになって低音が出るようになったわけね。低音の楽しみというか、そういう時代になったもので、オルガンが非常に盛んになってきてね、それであいうベースとなる音の上にのったハーモニーの喜びっていうのかな、そういう楽しみ方をみんなするようになってきているので、よけいブルックナーが最近みんなの興味の対象となり始めたのではないかな。それで、ブルックナーの音楽が和声的な楽しみが多いということなんだけれども、ブラームスもその意味ではベートーベンに比べると、変化和音の使い方の数が多いですね。勿論ベートーベン自身も、ものすごく多いわけなんですよ。彼らはその時代時代にそれまであったものに新しい喜びを付け加えた作曲家ということがいえるかもしれませんね。そしてブルックナーは我々が合唱なりオルガンなりいろんな曲で知った和声の楽しみを一歩前進尚一層前進させたといえると思います。あんまりこういうことは言われていませんが、ワーグナーではそれが非常に明確に出ていますよね。ブラームスの和声の動きの楽しみをブルックナーは極端に押し進めましたね。オーケストラ音楽では金管楽器にそういう和声のオルガン的響きを取り入れているわけだけれども、そこにアマチュアとして一つの難しい点があることも事実ですね。つまりドミソが完全に合うこと、そのドミソというのがその調性に属さないドミソである場合が非常に多いわけですね。だから非常に臨時記号が多くなってきて、瞬間的に、今、何調のドミソをやっているかということを理解しないと、ドミソが合わなくなるわけですよね。そしてぶつかる音が非常に多い。特に多いのは８番なんですが、８番では、その解決する和音の前に非常に強烈にぶつかる先取音があるわけで、そのために半音のぶつかりが非常に大きい。だから、まず、聞いた瞬間に、初めて聞いた人は、その瞬間、大変な不協和音の曲だという印象を受けるのです。そして何回か聞くうちに、それが次に見事に解決された時の喜びというものがわかるようになる。そういう完全和音に解決するために、それが非常な喜びとなる。又、その解決の仕方、先取音のとり方によってニュアンスが変わるという喜びが加わってきたわけです。そこで、先程いったアマチュアオケとしての困難な点は、解決した時、本当に解決しなくてはならないということがあって例えば、Fisが書いてあるからといってFisのKeyをおして、Fisの場所の指だけやってたのではいけない、ということが他の曲よりももっと極端にあらわれるわけです。つまりD-durのFisであればどうなるとか、そういう意識をみんながもたないと、その和声の喜びが享受できないわけですよね。それだけの困難があるけれども、それを乗り越えたときに得るものは大きい、そういうことですね。ブルックナーのそういうことはあまりいわれていないけれども、結果として表われてくる喜びは、そういうことだと思っています。

（この文章は昨年11月に行われた名古屋大オーケストラの公演のパンフレットより転載したものです。）



新　響　第　９　特　別　演　奏　会

日　　時	12月８日(月)、９日(火)　午後７時
会　　場	芝 郵便貯金ホール
曲　　目	交響曲第９番二短調〝合唱付〟（ベートーベン），交響詩「フィンランディア」(シベリウス)
指　　揮	芥川也寸志
独　　唱	Sop. 太田真己子　Alt. 遠藤久江　Ten. 小林久仁夫　Bar. 阿部正芳
合　　唱	中央合唱団
入 場 料	Ｓ：1200円　　Ａ：1000円　　Ｂ：800円（自由席）

AKM A-Kミュージック

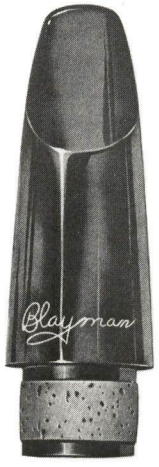
The Ultimate Clarinet Mouthpiece

by
BLAYMAN

メトロ・ポリタン オーケストラクラリネット主席奏者の長年の演奏体験が生んだ世界最高級マウスピース

¥7,200-

A-Kミュージック特約作品
絶対的自信作です



The Mouthpiece Search Stops Here!

お問合わせは
TEL 03(346)1761～3
新宿区西新宿1－4－11 宝ビル3F

専門的に弦楽器の相談が出来る店

コントラバス チェロ・ビオラ・バイオリン・コントラバス・チェロ・ビオラ バイオリン

弦楽器だけ置いてある店

コントラバス チェロ・ビオラ・バイオリン・コントラバス・チェロ・ビオラ バイオリン

ヨーロッパの伝統を伝える
各国マイスター作品の数々

オールド・新作各種在庫豊富

当面のもってる工房の弦楽器修理・調整技術をフルに活用し、丁寧かつ迅速なアフターサービスに努めております

CHAKI

日本アマチュア演奏家協会賛助会員店
日本信販加盟店

文京楽器製造株式会社
チャキ弦楽器

〒112 東京都文京区小石川2－1－11
TEL.（811）2084・（814）0974

新交響楽団

新響は明１９７６年で創立２０周年を迎えます。団員の年令・職業は様々で、１７才の高校生から今年７２才を迎えるH氏まで約100名の団員が免に角１９年間活動を続けてきたのは１つのイベントではありましょう。創立以来指導者が変わっていないこと、欠員のあるパートがほとんどないこと、年に6回ぐらいの演奏会を何とかこなしていること等、新響には誇ってもよい面があるにはあるのでしょうが、しかし実際には、さらにレベルを上げ「良い演奏」をするにはどうしたら良いか、といった基本的な事柄はもちろんですが、財政難、練習会場探しといったいろいろやっかいな問題をかかえているのが実情です。

例えば財政の面ですが、新響は独立団体でどこからも補助を受けていず、収入といえるものは演奏会の収益と月５００円の団員のみなのです。そしてこのインフレの世の中なのですから、新響が赤字に悩まされているというのも納得していただけるでしょう。この財政難のファクターの１つとして、使用料の安い練習会場が満足に得られないことがあります。というのは、新響は文化会館のリハーサル室を根城に週１～２回の練習を積んでいるのですが文化会館が都合でダメな時は他の会場を探す訳です。この場合使用料が数千円、楽器の運搬費にそれ以上がかかってくるのでこの出費が大きな負担となっているのです。現在文化会館にはリハーサル室が2つしかなくこれを新響を含めて多くの団体が使っているので、新響に限らず多くのアマチュアオーケストラは練習場の確保がなかなか大変なのです。以前からアマチュア音楽団体のための練習施設を都が作るという話はあるのですが、なかなか実現しません。

いろいろと悩み多き新響ではありますが、皆様の御声援を受けながら頑張ってゆくつもりです。(伊藤)



なぜ？新響

現在新響には、コントラバス８本（1本修理中）、バスクラリネット１本、コントラファゴット1本、コールアングレ（イングリッシュホルン）１本、ティンパニー2対、大太鼓、チューバ、譜面台80本、シンバル、その他打楽器の小物、等の楽器があります。

これらは創立以来の演奏活動の収益や芥川先生のご協力等でそろえたものばかりです。またこの他に、楽譜も相当揃っていますが、これもやはり楽器と同じようにして揃えたものです。

よく会社の人に“オーケストラにはいってやっている”って言うと、“月々どのくらいもらうんだ”なんてきかれます。

みなさんご存知のように、我々はアマチュアのオーケストラです



から、個人個人がお金をもらうなんていうことは絶対にありません。収益となったお金は、楽器、楽譜、譜面台、活動費にと化けてしまうのです。正直なところ、もらってるというよりも、お金は出し、事務活動、労役もすすんで行なう、というのが現状なのです。またこの現状がどのアマチュアオーケストラでも、このとおりであると私は思います。少ないひまと、さびしいふところをおしみなく提供できる人、このように特殊な人でないとオーケストラ活動をささえること、積極的に行なうことはできません。

今舞台にすわっているのは、こんな現状をみつめながら、音楽をやりたくて、やりたくて、やっている新響の団員たちです。また次



の演奏会にも、団員がチケットを買って下さいとみなさんの所へ伺うと思いますが、そのときはどうぞよろしくお願いします。

本日は久しぶりの客演で行なう演奏会で団員は、いつになくはりきっております。最後までご静聴下さい。

本日はご来聴ありがとうございます。　　(森田)

新響・団員募集!!

入団希望者に対しては原則として月の最終日曜日の午后オーディションを行い新響のレベル、パート人員の必要度、本人の環境、入団意志などを考慮して決定します。

〈オーディション課題曲〉

Vn　モーツァルト　協奏曲No5,1楽章
Vla エックレス　ソナタ2楽章
Vc　バ　ッ　ハ　無伴奏組曲第1番より「プレリュード」と「クーラント」
Cb　カプッツィ　協奏曲1楽章
El　モーツァルト　協奏曲二長第1楽章
Ob　ヘ　ン　デ　ル　ソナタNo1,1楽章
Fg　モーツァルト　協奏曲1楽章
Hr　ヒンデミット　ソナタ第3楽章
Tp　ハ　イ　ド　ン　協奏曲1楽章
Tb　R.コルサコフ　協奏曲1,2楽章
Tub ワーグナー　マイスタージンガー

〈問合せ先〉　①団員をご存知の方は団員を通して　②それ以外の方は都河(468-4703)まで